2016年　愛知県農業総合試験場の10大成果

繁殖性が高く、子豚の発育が優れた新しい系統豚「アイリスW３」を開発

－産子数や子豚の発育が向上します－

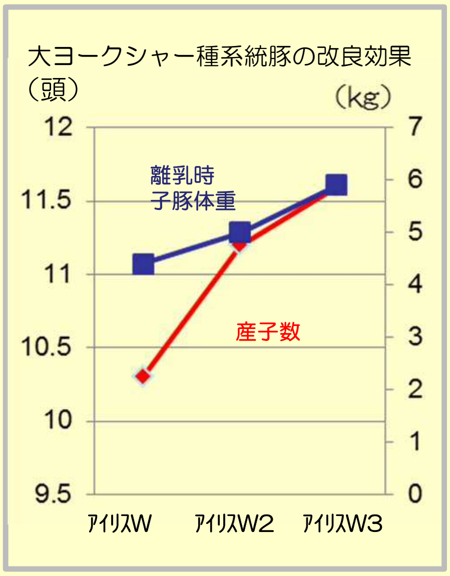
開発の背景・ニーズ

系統豚は、完成後一定期間が経過すると近交退化により能力が低下するため、開発後１３～１５年程度で更新する必要があります。繁殖性に優れた大ヨークシャー種系統豚「アイリスW２（平成１５年開発）」の後継系統豚の開発は、平成２２年度から開始しました。

成 果 の 内 容

もと豚として、国内から６０頭の豚を導入し、平成28年に、繁殖性、発育性に優れた新たな系統豚「アイリスW3」を開発しました。「アイリスW2」に比べ、以下のような優れた形質を持っています。
①１頭の豚から１回に生まれる子豚の数が増加しました(11.2→11.6頭)。
②子豚の発育が向上しました（離乳時の子豚体重5.0→5.9 kg）。
②1日あたりの豚の増体重が増加しました（829.8 → 889.8 g）。

「アイリスW３」



愛知県農業への貢献

平成28年10月下旬から畜産総合センターで「アイリスW３」の維持、増殖を始め、翌年秋から養豚農家へ供給します。愛知県の系統豚の県内普及率（平成25年度）は65％（農家戸数ベース）と非常に高く、「アイリスW３」を利用することにより、生産頭数の増加及び飼養期間の短縮などが期待でき、より生産性の高い養豚経営につながります。

畜　産　研　究　部